

福岡県久留米市立合川小学校

(様式 4-2 : 平成 30 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称： 特別支援学級在籍児を取り巻く地域の公共交通環境について考える学習					
2. テーマ： ICカードの使い方、バスの乗り方やマナー					
3. 実施教科： 生活単元学習					
4. 関連単元： 算数 (四捨五入、速さ、時刻と時間など) 生活 (レッツゴーまちたんけん) 国語 (手紙の書き方) など					
5. 実施単元数：					
6. 学年	1～6年	7. クラス数	5クラス	8. 生徒数	27名
9. 実施内容 まず、久留米市を取り巻く地域交通の代表として「西鉄バス」に着目させ、西鉄バスの方からの依頼という形で、バスの乗り方やマナーよさを学習する目的や見通しを持たせた。 次に、実際に運動場にバスに来てもらい、止まったバスを使って乗り方やマナー、どこに着目して乗っておくか、などの学習を進めた。 そして、学級でも再度模擬体験や、次回見学の見通しを持たせるなどの学習をし、路線バスに乗って公共施設である「サイクルファミリーパーク」までの校外学習を実施した。その中で、近くのお店に寄り、買い物の仕方についても学ぶことができた。 さらに、3学期には路線バスに加え、市内を走る電車を利用し、カードの使い方の復習、そして新たな公共交通機関の理解を深めることができた。 バスだけでなく、電車も自分たちで乗ることができ、公共交通機関を利用すると市内のいろいろな施設まで赴くことができることが実感することができた。学習後の子どもたちの感想では、「今度は家族で利用したい」というものもあり、公共交通機関への親しみをもち、利用したいという意欲を高めることができたと感じた。保護者の方からは、「公共交通機関を利用する貴重な体験が有難い。家族でもぜひ利用して今後の生活に生かしたい」との連絡も頂いた。 特別支援学級へ在籍する子どもたちが地域に密着した将来を築くことができる基礎となる貴重な学習になった。					

10. 学習のながれ：

学習の流れについては添付する指導案等をご参照ください。

※学習で使用了教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

モビリティ・マネジメント教育を合川小学校の学習に取り入れるにあたって

合川小学校 ひまわり1組 廣木 沙耶香

1 久留米市について

久留米市立合川小学校がある福岡県久留米市は東西に細長い市であり、東は田畑が充実しており、西は都会化が進みつつあるいろいろな自然や開発の織り交ざった市である。

「水と緑の人間都市」を基本理念とし、

- ①誇りがもてる美しい都市 久留米
- ②市民一人ひとりが輝く都市 久留米
- ③地力と風格のある都市 久留米

の3点を目指した都市計画を進めている。

そのような中で

目標像1 久留米市の強みを活かし、活力を育む地域公共交通体系

目標像2 誰もが安全・快適で、安心して暮らせる地域公共交通体系

の2点を地域公共交通に関する目標として掲げている。

久留米市には公共交通機関として「西日本鉄道（西鉄）」と「JR」が普及しており、これらの電車やバスを利用して生活を豊かにしている。

2 合川小学校に実態と公共交通機関の学習について

上記2点の目標像の中で、小学校段階の児童には目標像2が密接に関係しているのではないかと考えた。

特に特別支援学級在籍の子どもたちは、公共交通機関利用時のルールやマナーについても体験が乏しく、地域の方々と共に利用するには不安の残る実態がある。また、地域に住むの方々にとって大切な公共交通機関であるが、自動車が普及した現在は児童にとってなじみが薄く、公共交通機関が誰にとっても優しい工夫をしてくださっていることや自分たちにとっても重要な役割を果たしてくださっていることは実感しにくい。

特別支援学級在籍児童が大人になり、就職と向き合う際に重要視されることは、「自分の力で職場に行き来できるということ」である。つまり、公共交通機関をうまく利用する力を養うことが、社会の中で生きるために重要である。

3 期待できる成果

このような実態から、モビリティマネジメント教育を行う成果として

- ① 特別支援学級在籍児童が公共交通施設のルールやマナー、利用の仕方などを習得し、今後の生活の中で公共交通施設を利用すること。
- ② 学校や地域の方々へ発信することで、特別支援学級在籍児童が各学級や社会とのつながりを育むことを考えている。

またモビリティマネジメント教育とは、「自分の交通移動手段や交通利用を見直し、改善する学習」であると考えます。

そのため、学習活動は「気付く」「体験する」「広げる」の3段階の繰り返しであると考えます

その活動を繰り返すことで、自分を取り巻く公共交通機関に対する知識が広がり、対象が広がり、その中で認識が深まっていくと考える。

4 関連する学習内容について

学習指導要領にのっとり、関連する学習内容としては以下の社会科、生活科、生活単元の学習が考えられる。

社会科 3・4年 身近な地域や市の様子：身近な地域の交通の様子

生活科 公共交通機関を利用した公共施設の利用

特別支援学校生活科

1 段階

コ 社会の仕組みと公共施設 教師と一緒に 態度を育てる

交通機関の利用

交通機関の名称や利用方法 目的地まで行くための交通機関を知る

様々な方法で支払うことを体験する

2 段階

コ 社会の仕組みと公共施設 教師の支援で

交通機関の場所や名称を表現しようとする

例) 地域マップ作り

交通機関の利用

バスや電車を利用し、切符を購入したり料金を払ったりすることに慣れるとともに、いろいろな交通機関があることを知る

ケ きまり

日常生活のきまり を知る 行動しようとする

停留所や駅などでは並んで順番を待つ

順番を守って乗り降りをする

3 段階

コ 社会の仕組みと公共施設 自分の力で 主体的に

交通機関が社会で果たしている役割や働きへの関心を高める

交通機関を活用する力を高める

交通機関の利用

日常的に利用している電車やバスの切符を買う

一人で利用して慣れる

目的地まで確実に通う

遅延した際の対処方法

校外学習時の目的地までの交通機関を知る

ひまわり 1 組 生活単元学習指導案

指導者 廣木 沙耶香

単元 「西鉄バスの CM を作ろう」

指導観

- 本学級の子どもたちは、校外での学習に意欲が高く、少しずつ時間やきまりを守って学校生活を送ることができるようになってきている。また交流学級や異学年の特別支援学級の友達とも関わる中で自分の思いや考えを言葉や行動で表出しようとする姿が少しずつ見られるようになってきている。書くことや表現することに対してはそれぞれの学習課題にあった表現活動ができるようにしてきたが苦手意識が高い。そこで、家庭や学校内の人間関係やきまりだけでなく、家庭や学校以外の場所にも目を向け、自分を取り巻く地域の環境を理解し、体験して気づいたことを表現する喜びを実感することができるようになるこの期に本単元を取り上げる。そして、地域の公共交通機関の利用を通して自分で公共交通機関を利用できる力の基礎を養うと共に公共交通機関を利用するときのきまりやマナーを知ることによって自分がどのような行動をとることが大切かということを考えることができる力を養うことができるようにする。このことは、子どもたち自身の生活経験を広げ、公共の場におけるきまりやマナーを守る習慣や自分の思いや気づきを表現するために必要な知識や技能を身につけさせるとともに、経験したことを進んで表現しようとする態度を育てる上からも意義深い。
 - 本単元に関しては、1 学期に夏野菜を育て、その生長の様子を観察カードに記録する学習をしてきている。また 2 年生の生活科や 3 年生の社会科で身近な地域の様子の中にある公共交通機関の名称や役割については学習してきている子もいる。しかし、生活する場が家庭や学校に限られており、車や自転車を利用して移動することが多いため公共交通機関を利用する経験が少ない。本単元ではこれらの上に立って、身近に西鉄バスという公共交通機関があることを知り、その利用の仕方（乗り降りの仕方やお金の払い方）や公共施設を使用する際のマナー（静かに待機する・順番を守る）を理解し、経験したことを振り返り、交流学級の友達や家庭に伝えるためにバス旅行の CM を作ることができるようにする。このことは、自分の生活が地域の施設や人々、公共交通機関によって充実した生活になっていることに気づくことができ、自分の力で公共交通機関を利用して登校・出勤することができる力の基礎を養うことや相手や目的を考えてよりよく表現する方法を学ぶ学習へと発展していく。
 - 本単元の指導にあたっては、公共交通機関（西鉄バス）の利用の仕方やマナーを学ぶ中で、困ったときや分からないときなどに自分の考えを表現する方法や経験して気づいたことを他者に伝えるための表現の仕方をとらえ、自分の力で進んで他者を関わろうとする態度を養うことができるようにする。そのためには、実際に西鉄バスの方に話を聞く機会を設け、バスの利用の模擬体験をして利用するにあたっての意欲や自信を高めさせたあとに実際に西鉄バスを利用してサイクルファミリーパークへの校外学習を行い、経験して気づいたことや分かったことを CM に表現して友達や家庭に知らせることができるようにする。そこで、この単元ではまず「つかむ段階」では、「バスクイズ」を設定し、子どもたちが持っているバスについての知識の曖昧さに気づかせ、クイズで分かったバスのすばらしさや西鉄バスさんからのお願いを聞くことから「CM を作りたい」という意欲と学習の見通しを持たせる。次に、「つくる段階」では、バスやスイッチの実物を使うことで、バス利用の際のきまりやマナーを理解させ、バス利用に対する意欲と自信を高める。さらに、「わかる段階」では、学んだことを生かして通常運転している西鉄バスに乗り、サイクルファミリーパークに行くことでバスや公共施設の快適さや楽しさを味わわせる。最後に、「できる段階」では、「道の駅くるめ」にバスで行き、買い物することを重ねて取り入れることで、これまでの体験を経験として積み重ね、子ども達の自信へとつなげたい。
- また 3 学期に体験して気づいたことやできるようになったことを CM として表現させるための活動の振り返りを行い、交流学級や家庭へ紹介することで活動することの充実感を味わわせ、自ら他者に関わろうとする態度を育てたい。
- 特に、本時では、次回の見学に必要な情報を求めることにせまるために、『問いを引き出す活動』として本時課題場面であるしおりを見せて課題の内容をつかむ活動を行い、『再考する活動』では「なぜですか」という質問場面を設定し、見いだした見学に必要な情報を図や表と関連づけて考え、しおりを完成させることができるようにする。

目標

関心・意欲・態度	思考	観察・技能	知識・理解
交通機関や公共施設でのマナーを守ろうと意識して校外活動を楽しみ、気づいたことなどを進んで友達や家庭に知らせようとする態度を育てる。	公共の場での適切な行動の仕方を考え、体験カードや写真をもとに相手に伝えるためのよりよい伝え方の工夫を考えることができるようにする。	バスの中やバス停で意思表示をしたり、わからないときは教師や友達に尋ねたりするなど自分の考えを表現し、バスに乗った時の様子を思い出しながらCMを作成のための気付きを表現することができるようにする。	身近な交通機関の利用の仕方やマナーを理解するとともにそのよさや楽しさに気づき、自分の地域にこのような公共交通機関や施設があるということを理解することができるようにする。

本時 平成30年 10月 23日 (火) 第2校時 ひまわり1組教室において

主眼

- 降りるバス停や学校を出発する時間、乗っておく時間、料金など次回の見学に必要な情報を求めることができるようにする。
- 数のまとまりや時間の単位、数量の関係に着目し、絵や図、表に表す活動を通して、見学に必要な情報を見だし、しおりを完成させることができるようにする。

	A児 2年生	B児 3年生	C児 4年生	D児 4年生	E児 6年生	F児 6年生
実態	10までの数詞を読むことはできるが、数の概念が乏しく、数と数詞の一致や左右の正確さに課題がある。	時刻を読んだり、表したりすることはできるが時間を求めることに課題がある。	わる数が1桁のわり算は教師と一緒にできるが、位を読むことに課題がある。	四則計算をすることはできるが、学習意欲が低く、課題に取り組むことに課題がある。	道のり、速さ、時間を表す数を見つけ出すことはできるが、学習への取り組みや立式することに課題がある。	道のり、速さ、時間を表す数を見つけ出すことはできるが、課題に応じた単位変換に課題がある。
主眼1	右という方向や何番目の意味を理解して、止まるバス停を見付けることができる。	時間を理解し、学校を出る時間を計算することができる。	大人の半額である子どもの料金の金額を切り上げて計算することができる。	ニモカの入金した額と、使用する額の差を計算することができる。	バスから降りて歩く時間を距離と速さから計算することができる。	バスから降りて歩く時間を、単位を揃えて考え、計算することができる。
主眼2	方向や数のまとまりに着目してブロックを順番に動かす活動を通して、降りるバス停バス停見いだすことができる。	時間の単位に着目して時計の目盛りの数を数えたり、数直線上に表された時間を読み取ったりする活動を通して出発する時刻を見いだすことができる。	「バスの料金は切り上げる」という場面に着目し、筆算表や位取り表に書き込む活動を通して子どもの運賃を見いだすことができる。	「引く数」と「引かれる数」の関係に着目して筆算表に書き込む活動を通してニモカの残金を見いだすことができる。	「速さ」「時間」「道のり」の関係に着目し、色で弁別する活動を通して目的地まで歩く時間を見いだすことができる。	「速さ」「時間」「道のり」の関係に着目し、問題場面を絵図に表す活動を通して目的地まで歩く時間を見いだすことができる。

準備 見学のしおり、なぞときカード、ヒントカード、支援グッズ
 { A児→数のボード B児→時計表 C児→四捨五入カード D児→計算の順序色分けペン
 E児→電卓、公式カード F児→電卓、公式カード }

過程

段階	学習活動	形態	2つの活動(☆)と手立て(○)
つかむ 10	<p>1 見学のしおりを確認して、本時の課題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何時に学校に出るのか、調べないといけないな。 ・お金はどれだけかかるのかな。 ・どのバス停で降りるといいのかな。 	全	<p>☆次回の見学のしおりを確認することで、本時の課題の見通しを持たせると共に、前時までに学んだ情報の不十分さに気付かせ問いを引き出させる。</p> <p>→【問いを引き出す活動】</p>
つくる 15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて サイクルファミリーパークに行くために、必要な情報(時間とお金とバス停)を調べてしおりを作ろう。</p> </div> <p>2 自分の課題を理解し、その課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～め」を数えるときは一つずつブロックを置くよ。 ・時計の針は5分ずつ刻んでいたなあ。 ・「半額」は2つで分けるからわり算だ。 ・「切り上げ」という言葉があるから一の位を切り上げる。 ・「時間」を求めるから道のり÷速さだ。 	個	<p>○支援グッズを用いることで課題に取り組むことができるようにする。</p> <p>A児→数のボード B児→時計表と数直線 C児→四捨五入カード D児→計算の順序色分けペン E児→速さの絵図 F児→速さの絵図</p>
わかる 15	<p>3 自分の考えとその理由を発表し、しおりを仕上げる。</p> <p>○ 自分の考えを発表した後に「なぜですか」という問いに答え、考えの理由を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前から数えて4つ目にあるから、ここで降ります。 ・到着した時間から20分間前に戻るので、学校を出る時間はです。 ・子どもは大人料金の半額なので、÷2をして一の位を四捨五入するので90円です ・1500円から180円使うと残りは1320円入っています ・時間を求めるためには、距離÷速さをすればいいので、バスに乗っている時間は5分間です。 ・バスから降りて10分間歩くとサイクルファミリーパークに到着します。 <p>○しおりにみんなの考えを書き込み、しおりを仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8時50分に学校を出ると間に合うんだな。 ・90円でサイクルファミリーパークまで行けるんだ。 	全	<p>☆それぞれの課題を変えて情報差を持たせることで、友達考えに疑問を持ちながら考えることができるようにし、「なぜですか」という質問をさせることで、自分の考えを図や表と関連づけて言葉で説明することができるようにする。</p> <p>→【再考する活動】</p> <p>○A児は発表時にシールを作成してもらい、それを自分で貼ることができるようにする。</p> <p>D児は代表して黒板に書かせるようにして、学習に集中することができるようにする。</p>
できる 5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>まとめ</p> <p>バスに乗ってサイクルファミリーパークに行くためには、</p> <p><時間グループ></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 8時50分に学校を出発する。 ② 7分間バスに乗っておく。 ③ 3番目の 紫山住宅前 バス停で降りる。 ④ 15分間歩く。 <p><お金グループ></p> <ol style="list-style-type: none"> ①子ども料金は 90円である。 ②カードに残ったお金は1320円である。 <p>ことが分かる。</p> </div> <p>4 本時学習の振り返りをして、次回の見学への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで考えたので不安がなくなった。 ・サイクルファミリーパークに行くために早く学校に来よう。 ・バスはやっぱり安くて便利だな。 	全	<p>○振り返りを、①わかったこと(うれしかったこと)②がんばってできたこと(自信がわいたこと)③友達の良さ④もっと考えたこと(わが・と・も)の観点で振り返り、学習への自信と次回の学習への意欲を高める。</p>

単元計画(18時間)

段階	配時	学習活動	2つの活動(☆)と手立て(○)
つかむ	1	<p>1 「バスクイズ」をし、バスについての自分の知識の曖昧さに気づき、「クイズCMを作りたい」という意欲と学習の見通しを持つ。</p> <p>めあて いいところがたくさんあるバスなのに、なぜバスを利用する人が少ないのか調べよう。</p> <p>・ バスって久留米市全体を走っているんだ。 ・ 車よりもたくさんの人を運べてすごいな。 ・ みんなにバスのよさを教えてあげたいな。</p> <p>まとめ 乗り方やバス停の場所を知らず、車が便利だと思っているのでバスに乗る人が少ない。</p> <p>単元のめあて 久留米市にある西鉄バスはどんな人がどのように使っているのかを調べて、みんなが「西鉄バスに乗ってみたい」と思うようなバスのCMを作ろう。</p>	<p>☆「バスクイズ」の活動を設定することでバスについての自分の知識の曖昧さに気づかせ、学習の見通しを持たせる。 →【問いを引き出す活動】</p> <p>●国語 大体の話の内容を捉え、困っている内容を聞き取ることができる ☆西鉄バスさんからのビデオを見せることで、自分の学習課題を明確にさせる。 →【再考する活動】</p>
	④	<p>2 バスやスイッチの実物を使ってバス利用の際のきまりやマナーを理解し、バス利用に対する意欲と自信を高める。</p> <p>○西鉄バスの方の話の聞いたり、色々なバスを利用したり、比べたりして、バスに乗るときのマナーや利用の仕方を理解する。</p> <p>めあて どのようにしてバスを利用するのか、調べよう。</p> <p>・ 真ん中のドアから入って、前のドアから降りるんだね。 ・ ボタンを押して知らせるんだ。</p> <p>まとめ バスは、 ・ 真ん中のドアから入る。 ・ カードを通す。 ・ バスの中では静かにし、アナウンスを聞いておく。 ・ 停まるボタンを押す。 ・ 料金を支払う。 ・ 前のドアから出る。</p> <p>○時間や金額を調べ、サイクルファミリーパークへ行くためのしおりを完成させる。</p> <p>めあて サイクルファミリーパークに行くために、必要な情報(時間とお金)を調べてしおりを作ろう。</p> <p>まとめ バスに乗ってサイクルファミリーパークに行くためには、 <時間グループ> ① 8時50分に学校を出発する。 ② 7分間バスに乗っておく。 ③ 3番目の紫山住宅前 バス停で降りる。 ④ 20分間歩く。</p>	<p>○バスの体験乗車やおもちゃのバスを使ったの具体物を使った学習を設定することで、バス利用に対する意欲と自信を高めさせる。 ●生活 公共交通機関の利用の仕方を学ぶこと ●道徳 公共の心を理解すること</p> <p>●算数 降りるバス停や学校を出発する時間、乗っておく時間、料金など次回の見学に必要な情報を求めることができる ☆本時の課題を映像で見せることで、活動の見通しを持たせると共に、どれくらいの時間や費用がかかるのだろうと問いを引き出させる。【問いを引き出す活動】 ☆それぞれの課題を変えて情報差を持たせることで、友達の考えに疑問を持ちながら考えることができるようにし 「なんでですか」という質問をさせることで、自分の考えを図や表と関連づけて言葉で説明することができるようにする。 →【再考する活動】</p>
①本時			

わかる

④ 4 学んだことを生かして通常運転している西鉄バスを利用してサイクルファミリーパークに行き、バスや施設の快適さや楽しさを味わう。

めあて

しおりを確認しながら、バスに乗ってサイクルファミリーパークに行こう。

- ・降車ボタンを自分で押せたよ。
- ・バスに乗っているときは静かにするんだったな。
- ・バスならみんなで行けて楽しいな。
- ・順番を守ると自分も友達もイライラせずに楽しめたよ。



まとめ

時間やマナーを考えて計画通りにサイクルファミリーパークまで行くことができた。

② ○ 「道の駅くるめ」にバスに乗って行く計画を立てる。

めあて

道の駅くるめに行くためには、どのバスを利用して、どのようなものを買うことができるのか調べよう。

- ・9時に出発するバスに乗るといいね。
- ・500円以内の品物を買うよ。
- ・お家の人はどんなものを喜んでくれるかな。



まとめ

道の駅くるめに行くためには、9時に出発するバスに乗る。家族の喜ぶお土産を買う。

できる

6 5 自分たちでバスに乗ったことや「道の駅くるめ」で買い物をしたことを振り返り、気づいたことやできるようになったことを体験カードとして表現する。

④ ○ 自分たちでバスに乗り、「道の駅くるめ」で買い物をする。

めあて

しおりを確認しながら、バスに乗って道の駅くるめに行き、買い物をしよう。

- ・500円以内のお土産で買ったものを引き出すのはいいんだね。
- ・家の人が喜ぶ物は何か。



まとめ

バスも自分たちで乗ることができ、500円以内のもので家の人が喜ぶ物を考えることができた。

体験カードとして表現し、西鉄バスのよさや自らの成長に気づき、CMを作成するための意欲を高める。

めあて

バスにはどのような良さがあったか、振り返ろう。

単元のまとめ

久留米市には、子どもからお年寄りまで利用しやすいような工夫をしている西鉄バスがあり、料金も安く、便利である。使う人がまみやマナーを守って協力して利用している。

●生活

いろいろな人が自分の生活を豊かにしていることや自分ができるようになったことに気付くこと

●算数

500円のお金でお土産を買う計算をする。

☆目的地を前回よりも遠くに設定することで、どれくらいの時間や費用がかかるのだろうと問いを引き出させる。【問いを引き出す活動】

☆課題を変えて情報差を持たせることで、友達の考えに疑問を持ちながら考えることができるようにする。

→【再考する活動】

○交流学級や家庭へ紹介するための体験カードを作ることで活動したことへの充実感を味わわせ、自ら他者に関わりようとする態度を育てる。

●国語

自分が体験したことを写真の様子を見ながら文章で表現すること

☆これまでの学習で記録した体験カードを振り返らせることで、学習の見通しを持たせる。【問いを引き出す活動】

☆よさを分類・整理することでバスが人にも環境にも優しい工夫をしていることに気付かせる。

→【再考する活動】

単元名「西鉄バスのCMを作ろう」

<指導の実際と考察>

【つかむ段階】※「問いを引き出す活動」

つかむ段階では、本時の課題の見通しを持たせると共に、前時までに学んだ情報の不十分さに気付かせ、問いを引き出させることをねらいとした。そのために次回の見学のしおりを確認することを行った。子ども達はバスの乗り方を確認し、本時の課題である時間や料金に着目することができた。

○成果 前回までに学んだバスの乗り方を一人一人確認することができ、本時のそれぞれの課題も焦点化して捉えることができた。

●課題 時間をかけすぎてしまい、子どもたちの集中力が途切れてしまった。また本人以外の課題の把握も全員でしたので課題の見通しからそれぞれに分かれて取り組ませるべきであった。

【つくる段階】

つくる段階では、自分の課題を理解し、自分の考えを作ることをねらいとした。そのためにそれぞれの課題に応じた支援グッズを用いることを行った。子どもたちは支援グッズを使って自分の課題に取り組むことができた。

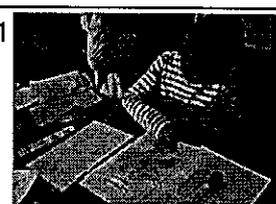
○成果 それぞれの段階に応じた課題を集中して取り組むことができた。

●課題 支援グッズが子どもたちにとって使い慣れたものではなかったため、課題を解くことに対してあまり有効であったとはいえなかった。改善が必要であった。

【わかる段階】※「再考する活動」

わかる段階では、友達の考えに疑問を持ちながら考えをもつことをねらいとした。そのためにそれぞれの課題を変えて情報差を持たせることを行った。違う情報をもった友達の考えをしつかりと聞き、質問があれば尋ねることができた。

資料1



○成果 それぞれに情報差があるので、相手に説明しよう、分からないことを尋ねようとする意欲を持って交流することができ、自分の課題を再考することにつながった。

●課題 本時では時間が足りず、2時間目に行った。「なぜですか」という問いを設定していたが知識差・学年差があったため説明しても理解に届かず、知識や理解を深める再考とは言いがたかった。

【できる段階】

できる段階では、学習への自信と次回の学習への意欲を高めることをねらいとした。そのために①わかったこと(うれしかったこと)②がんばってできたこと(自信がわいたこと)③友達の良さ④もっと考えたこと(わ・が・と・も)の観点での振り返りを行った。課題に取り組んだ自分の頑張りや友達の発表・説明の仕方を考察して振り返ることができた。

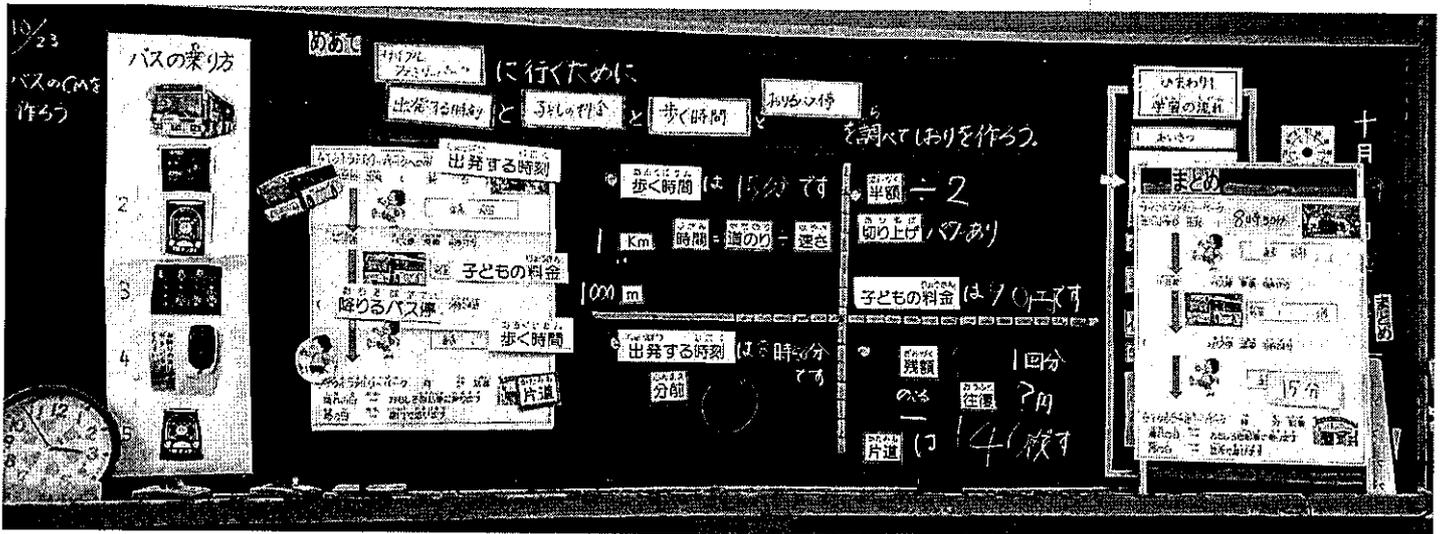
○成果 それぞれの課題を解くことで1つのしおりが完成するという1時間になったので、達成感や自尊感情の高まりを感じることができた。

●課題 しおりの情報が次回の見学と現実的につながっておらず、活用できる知識になっていなかった。

<単元（題材）全体の考察>

- 成果 実際にバスに乗って体験したり、模擬体験を繰り返したりする活動を仕組むことで、バスの利用の仕方やマナーに関する知識が理解するだけでなく、活用できる知識として子ども達に習得させることができた。また単元の最終段階に学んだことを相手に伝える活動を設定することで、学んだことを再度振り返ることができた。
- 課題 新たな知識や体験を得る時間が多く、得た知識や技能を「なぜかな」と理由を考えたり、話し合ったりする活動を取り入れることができなかつた。特別支援学級での「再考する活動」はどのようなものが適切なのか、考えることが大切であると感じた。

<板書>



C児 課題

せいりけん ばんごう ばん
整理券の番号は7番です。

こども ばす りょうきん
子どものバスの料金は表示されている金額の半額です。

ただし、はんがく りょうきん いち い
ただし、半額した料金の一の位は切り上げます。

こども りょうきん なんえん
子どもの料金は何円でしょう。



むらさきやまじゅうたく
紫山住宅

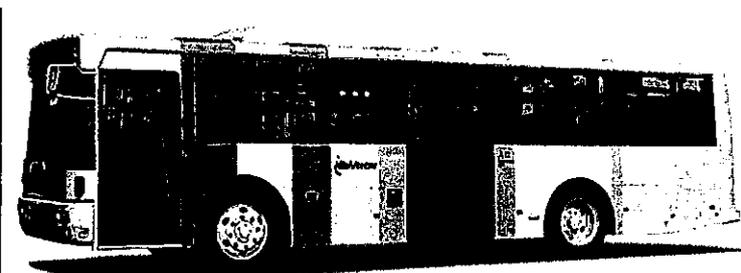
次は	1	2	3	4
	320	250	250	210
	5	6	7	8
	210	170	170	170
	9	10	11	12
	150			

A児 課題

じゅうさんぶ バステい から
バス に のります。

みぎ から 4 ばんめ の
バステい で おります。

おりる バステい の なまえ
は なんでしょう。



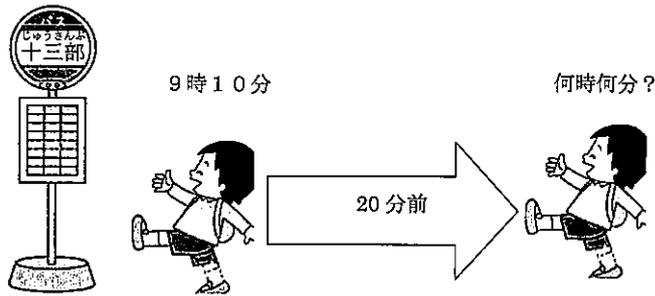
り	7	み
↑		
じゅうさんぶ	へ	た
みぎ	から	4
ばんめ	の	バ
ステ	い	で
お	り	る
↑		
り	う	み
↑		
じゅうさんぶ	の	な
ま	え	は
↑		
6		

B児 課題

9じ10ふん じゅうさんぶ ばす てい ついて
9時10分には十三部バス停に着いておきた
おもいます。

どうちやく じこく 20ふんまえ あいかわしょうがっこう
到着したい時刻の20分前に、合川小学校を
出ようとおもいます。

あいかわしょうがっこう なんじなんぶん する
合川小学校を何時何分に出るとよいでしょうか。

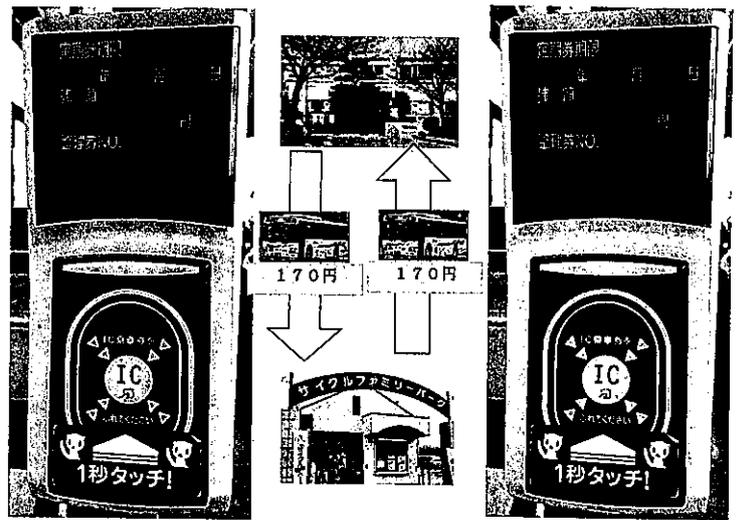


D児

かーど 1500えん はいって
カードには1500円入っています。

170えん おうふくうんちん しはらう
170円の往復運賃を支払うと

かーど なか ざんがく
カードの中の残額はいくらにな
っているでしょう。



F児 課題

ばす おりる よてい ばす てい
バスが、降りる予定のバス停に

どうちやく
到着しました。

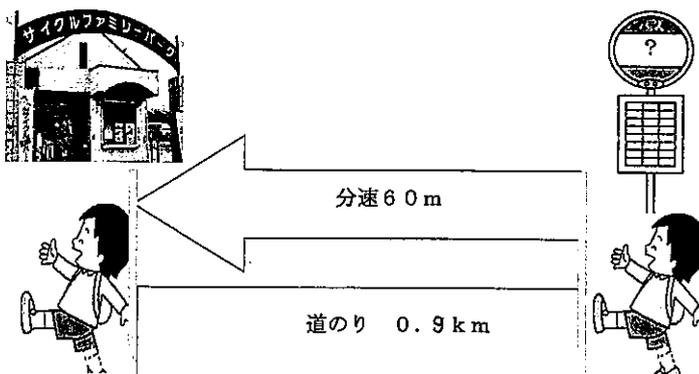
ばす てい さいくるふあみりーぱーく
バス停からサイクルファミリーパークまで

じかん なんぶんかんあるけば
の時間は何分間歩けばよいでしょう。

ばす てい さいくるふあみりーぱーく
バス停からサイクルファミリーパークまで

の道のりは0.9kmです。

しょうがくせい あるくはやさ ふんそく
小学生が歩く速さは分速60mです。



単元 「西鉄バスのCMを作ろう」

指導観

- 本学級の子どもたちは、男子3名、女子1、計4名である。知的障害学級で全体的には落ち着きのある児童が多く、会話も普通に話せる児童が多い。朝の活動など一日の流れを決めることで、スムーズに授業に入れるようにしている。授業では、次に何をするのか一人一人わかるように黒板に授業の流れを提示して考えて学習できるようにしている。また、他学年と一緒に自立や生活単元、日常生活の学習を通して児童同士のふれあいもある。言語理解やコミュニケーション・社会性の実態は様々であるが、どの児童も友達との関わり方やコミュニケーションの取り方に困難さをもっている。そこで、家庭や学校内の人間関係やきまりだけでなく、家庭や学校以外の場所にも目を向け、自分を取り巻く地域の環境を理解し、体験して気づいたことを表現する喜びを実感することができるようになるこの期に本単元を取り上げる。そして、公共交通機関の利用を通して自分で公共交通機関を利用できる力の基礎を養うと共に利用するときのきまりやマナーを知ることによって自分がどのような行動をとることが大切かということを考えることができる力を養うことができるようにする。このことは、子どもたち自身の生活経験を広げ、公共の場におけるきまりやマナーを守る習慣や自分の思いや気づきを表現するために必要な知識や技能を身につけさせるとともに、経験したことを進んで表現しようとする態度を育てる上からも意義深い。
 - 本単元に関しては、1学期に夏野菜を育て、その生長の様子を観察カードに記録する学習をしてきている。また2年生の生活科や3年生の社会科で身近な地域の様子の中にある公共交通機関の名称や役割については学習してきている子もいる。しかし、生活する場が家庭や学校に限られており、車や自転車を利用して移動することが多いため公共交通機関を利用する経験が少ない。本単元ではこれらの上に立って、身近に西鉄バスという公共交通機関があることを知り、その利用の仕方（乗り降りの仕方やお金の払い方）や公共施設を使用する際のマナー（静かに待機する・順番を守る）を理解し、経験したことを振り返り、交流学級の友達や家庭に伝えるためにバスのCMを作ることができるようにする。このことは、自分の生活が地域の施設や人々、公共交通機関によって充実した生活になっていることに気づくことができ、自分の力で公共交通機関を利用して登校・出勤することができる力の基礎を養うことや相手や目的を考えてよりよく表現する方法を学ぶ学習へと発展していく。
 - 本単元の指導にあたっては、公共交通機関（西鉄バス）の利用の仕方やマナーを学ぶ中で、困ったときや分からないときなどに自分の考えを表現する方法や経験して気づいたことを他者に伝えるための表現の仕方をとらえ、自分の力で進んで他者を関わろうとする態度を養うことができるようにする。そのためには、実際に西鉄バスの方に話を聞く機会を設け、バスの利用の模擬体験をして利用するにあたっての意欲や自信を高めさせたあとに実際に西鉄バスを利用してサイクルファミリーパークへの校外学習を行い、経験して気づいたことや分かったことをCMに表現して友達や家庭に知らせることができるようにする。そこで、この単元ではまず「つかむ段階」では、「バスクイズ」を設定し、子どもたちが持っているバスについての知識の曖昧さに気づかせ、クイズで分かったバスのすばらしさや西鉄バスさんからのお願いを聞くことから「CMを作りたい」という意欲と学習の見通しを持たせる。次に、「つくる段階」では、バスやスイッチの実物を使うことで、バス利用の際のきまりやマナーを理解させ、バス利用に対する意欲と自信を高める。さらに、「わかる段階」では、学んだことを生かして通常運転している西鉄バスに乗り、サイクルファミリーパーク・スポガヘボーリングに行くことでバスや公共施設の快適さや楽しさを味わわせる。
- 最後に、「できる段階」では、「道の駅くるめ」にバスで行き、買い物することを重ねて取り入れることで、これまでの体験を経験として積み重ね、子ども達の自信へとつなげたい。

目標

関心・意欲・態度	思考	観察・技能	知識・理解
交通機関や公共施設でのマナーを守ろうと意識して校外活動を楽しみ、気づいたことなどを進んで友達や家庭に知らせようとする態度を育てる。	公共の場での適切な行動の仕方を考え、体験カードや写真をもとに相手に伝えるためのよりよい伝え方の工夫を考えることができるようにする。	バスの中やバス停で意思表示をしたり、わからないときは教師や友達に尋ねたりするなど自分の考えを表現し、バスに乗った時の様子を思い出しながらCMを作成のための気づきを表現することができるようにする。	身近な交通機関の利用の仕方やマナーを理解するとともにその快適さや楽しさに気づき、自分の地域にこのような公共交通機関や施設があるということを理解することができるようにする。

- 1 校外学習を通して、降りるバス停や学校を出発する時間、料金などの振り返りをして出来たか確認をする。
- 2 校外学習を通して、わかったことを・気づいたことをしおりに完成させることができるようにする。

準備 見学のしおり、ワークシート、ホワイトボード、支援グッズ
 過程 (18/18)

段階	学習活動	形態	2つの活動(☆)と手立て(○)
つかむ 10	1 校外学習を通してバスの乗り方がどうだったか、映像と共に本時の課題を理解する。 ・バスの乗り方はスムーズにできていたか。 ・乗っている際の乗り方はできていたか。 ・乗り換えや目的地まで困ったことはなかったか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">めあて バスにはどのような良さがあったか考えよう。</div>	全	☆校外学習での様子を映像を見ながら、本時の課題の見通しを持たせると共に、視覚的に自分の姿を見て考える。(教師が映像ごとにヒントとなるような言葉を伝えていく) →【問いを引き出す活動】
つくる 15	2 ワークシートにできたことを記入する。自分の課題を理解し、その課題に取り組む。 ・降りるバス停はあっているか。 ・料金の支払いは出来たか ・バスに乗ることでよかったこと	個	○1人1人ワークシートをわけ取り組むことができるようにする。 A児→質問を教師が読む。→書く (A児) B児→ワークシートの書き始めの提示 C児→見通しの提示 (ホワイトボード) D児→声を掛けながら、様子を見る。
わかる 15	<div style="text-align: center;"></div> 3 自分の考えをペア活動し交流して発表する。 ○自分の意見を伝え、友達の意見をしっかり聞く。 ○しおりにみんなの考えを書き込み、しおりを仕上げる。	全	☆自分の意見を友だちに伝え、自分とは違う意見を受け入れ話を聞く。(「違う」など否定的な言葉) 疑問に思うことは、話が終わってから質問することで、話す人聞く人の区別をさせる。 →【再考する活動】 ○ペア・グループの活動は話す人看板と聞く人看板を作成して、誰が話しているか、聞いているかを視覚的に明確にする。→『視覚的支援』
できる 5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> まとめ 久留米市には、子どもからお年寄りまで利用しやすいような工夫がしている西鉄バスがあり、料金も安く、便利である。使う人がきまりやマナーを守って協力して利用している。 </div> 4 本時学習の振り返りをして、次回からバスを利用する意欲を高める。 ・みんなで考えたので不安がなくなった。 ・今度はおうちの人と行って見よう。 ・バスはやっぱり安くて便利だな。	全	○振り返りを、①わかったこと(うれしかったこと) ②がんばってできたこと(自信がわいたこと) ③友達の良さ④もっと考えたこと(わ・が・と・も)の観点で振り返り、学習への自信と次回の学習への意欲を高める。

わかる	<p>④ 4 学んだことを生かして通常運転している西鉄バスを利用してサイクルファミリーパークに行き、バスや施設の快適さや楽しさを味わう。</p> <p>めあて しおりを確認しながら、バスに乗ってサイクルファミリーパークに行こう。</p> <p>・降車ボタンを自分で押せたよ。 ・バスに乗っているときは静かにするんだったな。 ・バスならみんなで行けて楽しいな。 ・順番を守ると自分も友達もイライラせずに楽しめたよ。</p> <p>まとめ 時間やマナーを考えて計画通りにサイクルファミリーパークまで行くことができた。</p> <p>② ○ 「道の駅くるめ」にバスに乗って行く計画を立てる。</p> <p>めあて 道の駅くるめに行くためには、どのバスを利用して、どのようなものを買うことができるのか調べよう。</p> <p>・9時に出発するバスに乗るといいね。 ・500円以内の品物を買うよ。 ・お家の人はどんなものを喜んでくれるかな。</p> <p>まとめ 道の駅くるめに行くためには、9時に出発するバスに乗る。家族の喜ぶお土産を買う。</p>	<p>●生活 いろいろな人が自分の生活を豊かにしていることや自分ができるようになったことに気付くことができる。</p> <p>●算数 500円のお金でお土産を買う計算をすることができる。 ☆目的地を前回よりも遠くに設定することで、どれくらいの時間や費用がかかるのだろうと問いを引き出させる。 →【問いを引き出す活動】 ☆課題を変えて情報差を持たせることで、友達の考えに疑問を持ちながら考えることができるようにする。 →【再考する活動】</p>
できる	<p>6 5 自分たちでバスに乗ったことや「道の駅くるめ」で買い物をしたことを振り返り、気づいたことやできるようになったことを体験カードとして表現する。</p> <p>④ ○ 自分たちでバスに乗り、「道の駅くるめ」で買い物をする。</p> <p>めあて しおりを確認しながら、バスに乗って道の駅くるめに行き、買い物をしよう。</p> <p>・500円からお土産で買うものを引き算すればいいんだね。 ・家の人が喜ぶ物は何かな。</p> <p>まとめ バスも自分たちで乗ることができ、500円以内のもので家の人が喜ぶ物を考えることができた。</p> <p>② ○ 体験して気づいたことやできるようになったことを体験カードとして表現し、西鉄バスのよさや自らの成長に気づき、CMを作成するための意欲を高める。</p> <p>めあて バスにはどのような良さがあったか、振り返ろう。</p> <p>単元のまとめ 久留米市には、子どもからお年寄りまで利用しやすいような工夫がしている西鉄バスがあり、料金も安く、便利である。使う人がきまりやマナーを守って協力して利用している。</p>	<p>○交流学級や家庭へ紹介するための体験カードを作ることによって活動したことへの充実感を味わわせ、自ら他者に関わろうとする態度を育てる。</p> <p>●国語 自分が体験したことを写真の様子を見ながら文章で表現することができる。</p> <p>☆これまでの学習で記録した体験カードを振り返らせることで、学習の見通しを持たせる。 →【問いを引き出す活動】 ☆よさを分類・整理することでバスが人にも環境にも優しい工夫をしていることに気付かせる。 →【再考する活動】</p>
本時		